

# さあ 次世代クラウドへ

メールセキュリティサービスで100万ユーザを支えた実績

## 充実の サポート

- ・きめ細やかな要望対応
- ・アクセスコントロール
- ・サテライトオフィスの実現
- ・24時間 365日監視(\*)
- ・WEBメールなどのグループウェア(\*)

GIDEON

## セキュアな サービス

- ・OSからサーバまでの構築と運用
- ・メールセキュリティ対策(アンチウイルス/アンチスパム)
- ・メールアーカイブ(\*) ・WEBサーバの構築と運用(\*)
- ・導入時コンサルティング(\*) ・導入時移行サポート(\*)

## 整備された インフラ

- ・安定したインフラ
- ・最新のプラットフォーム
- ・高い可用性
- ・自由な拡張

100ユーザ 298,000円/年から(オプションサービス除く) (\*)はオプションサービスになります。



# ギデオン セキュアクラウドサービス

「ギデオン セキュアクラウドサービス」は社内やデータセンターへ置いているサーバのクラウドサーバ(VPS)への移行、メールセキュリティ対策、運用・監視を弊社にお任せいただくサービスです。

## ■サービスの概要

- ・ 既存サーバからVPSへの移行のためのコンサルティング、移行作業
  - ・ VPSの構築・各種設定作業
  - ・ 弊社製品によるメールセキュリティ・アーカイブ対応
  - ・ 弊社製品についてのサポート対応
  - ・ メールアプリケーションの設置(WEBメール、グループウェア)
  - ・ イン트라ネットサービスの導入
  - ・ VPSの運用・監視対応
- ※上記内容のほか、お客様のご要望に応じて鋭意対応させていただきます。

## ■サービスの特徴

### (1)セキュアなサービス

- ・ OSからサーバまでの構築と運用  
セキュリティは、通信アクセス、OS、サーバ、アプリケーション、利用者のアクセス制御、すべての階層で方針が一貫して運用されて初めて確保できます。したがって、セキュリティ管理者には過去の実績と新たな問題が発生したときの迅速な対応が求められ、高度なノウハウが必要になります。これまでの運用実績を踏まえ、当社で一貫して管理いたします。
- ・ メールセキュリティ対策  
100万ユーザの導入実績がある当社のウイルス、スパム対策ソフトがご利用いただけます。また、ソフトのバージョンアップや、定義ファルの更新は自動で行われますので、安心してご利用ください。ご利用環境の変更にも迅速に対応いたします。
- ・ メールアーカイブ  
当社製品のメールアーカイブは、ウイルス、スパム対策と併用いただけ、より効果的なアーカイブが可能です。また、JSOX法などに準拠した監査目的のみならず、自社のメール情報の共有にも役立ちます。
- ・ 導入時移行サポート  
現在のご利用環境のデータ及び設定内容の移行をサポートさせていただきます。移行の範囲および内容に関しましては、個別に検討いたします。

## (2) 充実のサポート

- ・きめ細やかな要望対応  
管理運用に必要なツールの導入、運用時の問題解決に向けた対応などのご相談に応じます。将来的に有益なサービスと判断した場合、無償で拡張機能をご提供させていただきます。
- ・アクセスコントロール  
セキュリティ管理運用上で最も重要な項目の一つが、外部からのアクセスコントロールです。このアクセス管理方針に準拠して、システム構築して運用ガイドのひな形を提供いたします。アクセスコントロール関連のモジュール管理も行います。
- ・サテライトオフィスの実現  
自宅待機やオフィスの移動に伴う情報インフラの変更を最小限にし、アクセス拠点到に依存しない、安全なアクセスを可能にします。これによって、システムの運用管理が非常に楽になります。
- ・24時間 365日監視  
サービスの継続性がさらに強く求められる場合、常時障害対策メニューもご用意させていただきます。
- ・WEBメールなどのグループウェア  
新規にグループウェアの導入を検討される場合や、システムの拡張を検討される場合のご提案をいたします。

## (3) 整備されたインフラ

- ・安定したインフラ  
大手クラウドサービスを利用することで、安定したサービスインフラが確保できます。サーバのハードウェア管理運用が24時間365日監視されており、電源の安定供給、回線品質が良いことにより、自社にサーバを設置するより管理コストが激減します。
- ・最新のプラットフォーム  
ハードウェアの陳腐化や老朽化を心配する必要がなくなり、必要性和コストに応じてサーバスペックを拡張、縮小できます。
- ・高い可用性  
クラウドサービスでは、障害時に別サーバに切り替えるなど、サービスの継続性を高めることが容易かつ低コストで実現できます。自由な拡張 ハードディスク容量、処理能力の増強、一時的な処理負荷に対応できる自由度が上がります。

# ギデオン セキュアクラウドサービス

## ■サービスの体系

### (1)クラウド移行サービス(導入時コンサルティング)

サーバ機能仕様策定、サーバ仮想ハード仕様策定、移行手順策定、スケジュール策定  
ユーザ情報データ移行、DNS情報変更など

例) Cobaltユーザのサービス範囲でクラウドに移行するサービス

⇒20万円/VPSから

### (2)サーバ構築サービス

メールサーバの初期設定、DNS初期設定、基本ファイアウォール設定、VPN設定、  
アクセス制限、監視ツールの設定など

### (3)メールセキュリティサービス(アンチウイルス、アンチスパム、アーカイブ)

メールサーバ構築、セキュリティ製品導入、ユーザライセンス/年

メールサーバの容量管理などのメンテナンス

※弊社製品のライセンスご利用ユーザ様はそのまま継続してライセンスがご利用いただけます。他社製品からの乗り換えの場合にも半額キャンペーンが適用されます。

### (4)運用サービス

OSセキュリティパッチ、モジュールパッチの適用、管理ログ、管理レポート作成など

### (5)付加価値サービス

WEBメール、スマートフォン対応メールなど

イントラネットサービスの導入など

### (6)24/365監視サービス

死活監視、サービスの再起動、利用リソースの管理、サービス継続のためのフェイル  
オーバー操作など

⇒ 18万円/年VPSから

## ■セキュアードクラウド サービス事例

企業システムへのクラウド移行とその効果について、事例から解説します。

計画停電のアナウンスを受けて、社内サーバが停止した場合、サービス提供が困難になる可能性があり、サービス継続のためクラウドサーバ移行を行いました。同時にハードウェアメンテナンスをなくすため、データセンタにある機能も全てクラウドに移行しました。

これまでデータセンタおよび社内のサーバールームにハードウェアを設置して、インターネットのサービスを提供。

### ◎移行前のシステム構成

#### ※データセンタ

機器構成:

ルータ、1Uラック3台、バックアップHDD

使用用途:

メールサーバ、WEBサーバ、DNSサーバ、更新サーバ、バックアップサーバ、死活監視、データ解析など

#### ※社内サーバ

機器構成:

ルータ3台、タワー型10台、バックアップHDD

使用用途:

セカンダリメールサーバ、セカンダリWEBサーバ、セカンダリDNSサーバ、セカンダリ更新サーバ、バックアップサーバ、開発用VM環境、テスト環境、外部からのサポート接続サービス、各種リソース管理

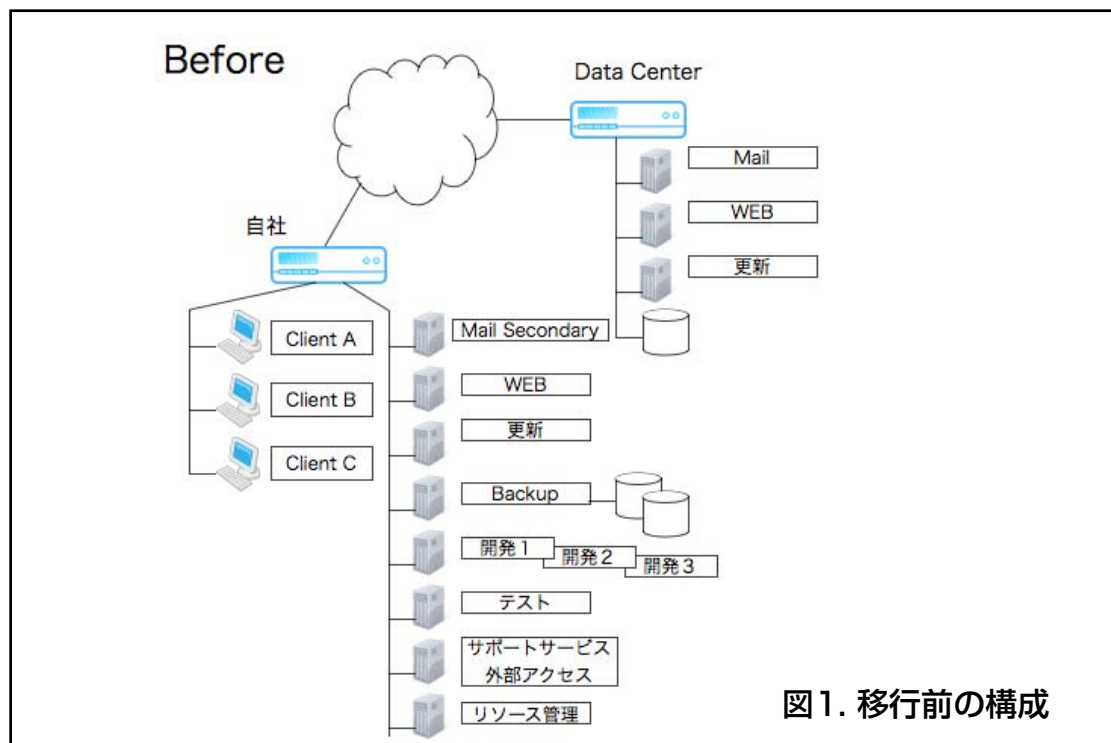


図1. 移行前の構成

## ◎移行後のシステム構成

クラウドサーバを大きく5つの機能に分散して構築

- ーインターネットサービス提供用サーバ(VPS1～3)
- ー外部アクセス可能なサポートサービス用サーバ
- ー社内からVPSへのアクセス認証用サーバ
- ー社内業務データバックアップ用サーバ
- ー開発業務用サーバ

### ※インターネットサービス提供用サーバについて

インターネットでサービスを行っている、メールサーバ、WEBサーバ、DNSサーバ、更新サーバ、アップロードサーバなどを大手プロバイダ3つのVPSに移行、三ヶ所でサーバ構築を行い、それぞれをプライマリサーバ、セカンダリサーバ、サードサーバに割り振り、プライマリサーバが停止した場合でも、セカンダリ、サードに順次切り替わるようにしました。

また、特定のアクセスポートのみ外部からのアクセスを許可し、同時にアプリケーションレベルのアクセス制御も行っています。

なお、インターネットサービス提供用サーバを3つに分けたのは、次の理由からです。

- ・DDosなどの特定サーバへの攻撃で、サービスができなくなる事態を回避
- ・サーバを分散することで、データセンタでの障害やサービス停止のリスクを回避

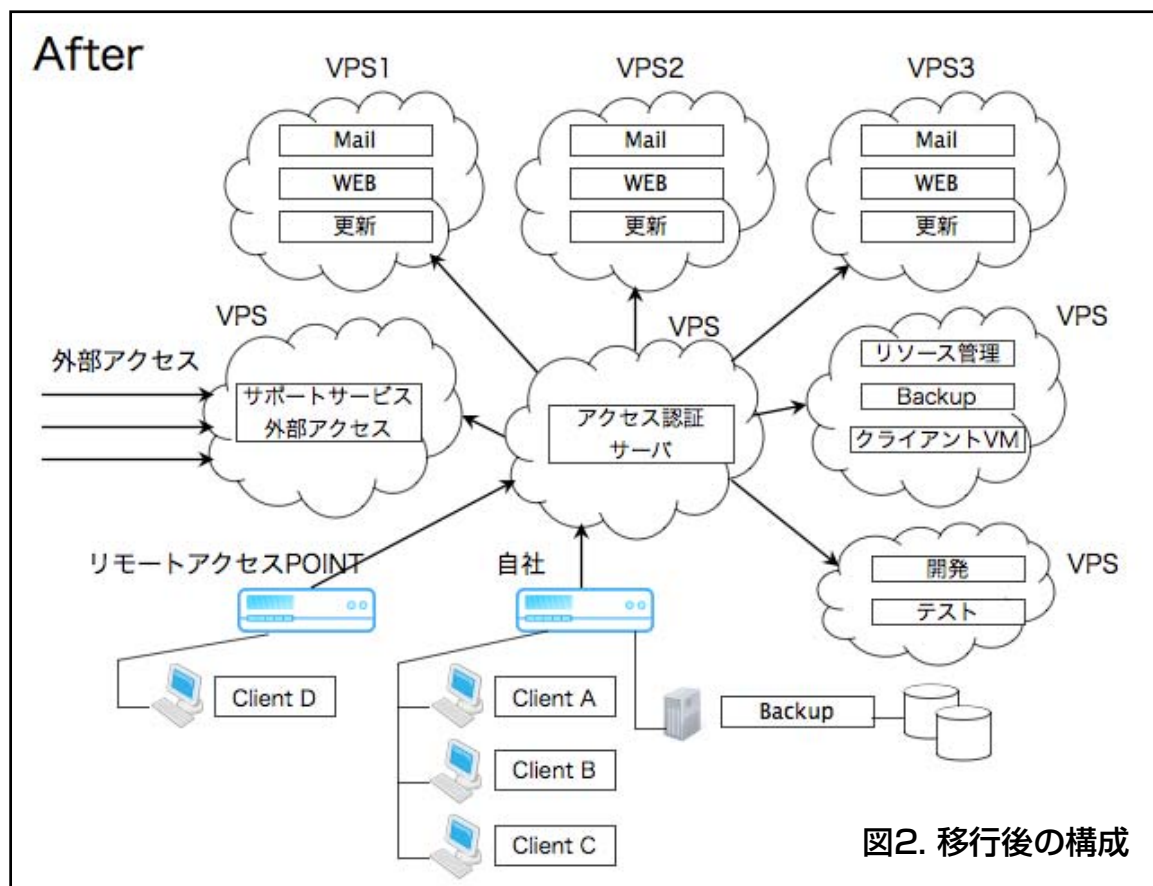


図2. 移行後の構成

## ■クラウド移行のメリット

### (1)ハードウェアの導入コスト及び(人件費も含む)メンテナンスコストがゼロ

先の構築例では、約十数台のサーバが不要になったことで、ハードの投資、電気代、管理の人件費、障害時の対応に関する心配がなくなりました。コスト換算で年間200万円以上のダウン。さらに停電対策、エネルギー削減、労務管理の低減につながりました。

### (2)大手のプロバイダを利用することにより強度の高い安全な環境を確保

大手のプロバイダの安定したインフラをつかうことで、自社でのサーバ管理より安全な環境を確保できました。さらには、大手のプロバイダに分散したことで、フェイルオーバーの機能を実現でき、リスク分散ができました。

### (3)サービスの特徴を活かしたシステム構築

大手クラウドサービスはそれぞれ特徴があり、その長所をうまく使うと、コストパフォーマンスが最大化できます。例えば、更新サーバやアップロードサーバではデータサイズが大きくなったり、一斉配信で特定時間帯に通信のセッションがオーバーフローすると、セカンダリサーバ、サードサーバに引き継ぎます。しかしさらに受け皿サーバを 特定時間帯だけにサービスの口として準備しておくことができます。このように特定の時間帯のセッション増加だけをカバーできるので、そのような課金体系のVPSを利用することで、コストを抑えることができます。また、フェイルオーバーサーバとして、ほかのVPSに障害があったとき、回復までの時間を利用することもできます。

### (4)リモートオフィスを実現

自社のサーバをVPSに移行したことで、不特定アクセスポイントから、会社全体のリソースを利用できるようになりました。これによって、自宅にいながら作業したり、オフィスそのものを移動することができるようになりました。さらに、本社が停電していても、支店など別拠点からでも全てのオペレーションが可能になりました。特に、開発チームはオフィス以外の場所で作業できるようになりました。

なお、会議などのコミュニケーションはオフィス以外の場所で、同じ通信回線を用いたテレビ会議で円滑に行うことができます。

### (5)開発、テスト環境リソースを自在に割り付けることが可能に

開発、テスト環境をこのサーバ上で構築していたため、集中的にテストを行うと、サーバ機が不足することがありました。今回は、開発リソースをすべてクラウド上に置くことで、必要なテスト環境を全て、インターネット環境上で構築できます。

しかも、クラウドなら、テスト環境が不足したら、即座に仮想リソースを増やすことができます。これによって、待ち時間がなくなり、テスト期間の短縮につなげることができます。

### (6)クライアント環境をどこにでも移行できるようになった

厳格なアクセス制御のもと、各自のクライアント環境をすべてクラウドに保全するようにしました。これによって、どこにいてもクライアント環境を各々のノートブックPCなどで再現することが可能になりました。ハードの障害でクライアントPCが使えなくなっても、作業環境を別のマシン上で復旧できます。